

お薬のしおり

脂質異常症について No.108 (H23.1)

東京医科大学病院 薬剤部

健康診断で、「コレステロールが高い」と言われたことはありませんか？
血液中のLDL コレステロール、HDL コレステロール、中性脂肪など脂質の数値で診断されるのが「脂質異常症」です。（2007年4月に日本動脈硬化学会が公表した新ガイドラインより「高脂血症」から「脂質異常症」へ病名が変更されました。）LDL コレステロールはコレステロールをさまざまな細胞へ運ぶので悪玉コレステロール、HDL コレステロールは体内の組織からコレステロールを取り除き肝臓へ運ぶので善玉コレステロールとも呼ばれています。

☆脂質異常症の診断基準（空腹時採血）

LDL コレステロール	140mg/dL 以上
HDL コレステロール	40mg/dL 未満
中性脂肪	150mg/dL 以上

コレステロールと中性脂肪は、血液中にある重要な脂肪（脂質）です。コレステロールは、細胞膜の成分であるほか、ステロイドホルモンや胆汁酸の原料になります。胆汁酸は脂肪の消化・吸収に重要な役割を果たしています。体は必要なコレステロールをすべて体内でつくることができますが、食物からも摂取します。脂肪細胞に含まれる中性脂肪は、分解され、成長などの体の代謝過程に必要なエネルギーとして使用されます。中性脂肪は、腸と肝臓で脂肪酸という小さな脂肪からつくられます。脂肪酸には、体内でつくられるものもありますが、食物から摂取しなければならないものもあります。

脂肪分の摂り過ぎなどにより血液中の脂質が増えた状態



が続くと、血管そのものに影響を及ぼし、やがて動脈硬化どうみゃくこうかが起こりやすくなります。脂質異常症は、食生活の欧米化が進むと共に、若年層にも増えている注意すべき病気です。また、女性ホルモンの減少で LDL コレステロールの処理能力が低下するため、女性は更年期を迎えるとコレステロールが急に高くなることがあります。

脂質異常症の治療は、第一に、運動療法・食事療法です。これらで改善がみられなかった場合に、薬での治療を開始します。

脂質異常症に用いる代表的な薬には、以下のようなものがあります。

◆スタチン系（商品名：メバロチン、リポバス、ローコール、リピトール、リバロ、クレストールなど）肝臓でコレステロールが合成される際に必要な酵素こうそを阻害し、強かに LDL コレステロールを低下させます。

◆フィブレート系（商品名：ベザトール SR、リピディル、ビノグラック、リポクリンなど）主に中性脂肪を低下させます。また、HDL コレステロールを上昇させる作用もあります。

◆陰イオン交換樹脂（商品名：コレバイン、クエストランなど）消化管たんじゅうで胆汁酸たんじゅうさんを吸着して便として排泄させます。そのため、肝臓では胆汁酸たんじゅうさんを補おうと、コレステロールが大量に消費されます。

◆小腸コレステロールトランスポーター阻害薬（商品名：ゼチーア）食事由来のコレステロール、胆汁由来のコレステロールが小腸から吸収されるのを阻害します。

薬を服用していても、運動療法・食事療法は続けなければなりません。睡眠不足、酒、喫煙、ストレスなど脂質異常症を誘引する危険因子を生活から遠ざけることが大切です。脂質異常症治療の最終目的はコレステロールを下げ動脈硬化どうみゃくこうかを防ぎ、心筋梗塞しんきんこうそくや狭心症きょうしんしょう、脳梗塞のうこうそくなどを予防することです。はっきりとした自覚症状がないので、症状・原因・治療・検査や気になる色々な情報などから、早期発見して予防できるようにしましょう！